

早稲田大学 国際教養学部 数学 講評

〔総合分析〕

出題形式	マーク式
試験時間	60分
特徴・その他	

〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
問1	集合と整数	<p>昨年問1は小問形式であったが、本年は整数を要素とする集合の問題であった。</p> <p>平方数を共通の要素にすることで要素を1つずつ調べていく整数問題らしい良問である。</p>	標準
問2	三角比と三角関数の和積(和を積に直す)公式	<p>正弦定理を $2R \sin B = b$ の形から用いるところに気付くかが鍵となる。</p>	標準
問3	放物線と円が2点で接する条件 曲線により囲まれた図形の面積	<p>今年の問題の中では頻出度の高い問題。</p> <p>共通接線の方程式、円と放物線の接する条件から条件を絞る。</p>	標準

〔総合コメント〕

<p>昨年と比較すると問題量が減ったように感じられるが、問1, 2は部分点で稼ぐことが困難な問題構成になっている。この問題数では偏差が縮まり1題の取りこぼしが致命傷となる。</p> <p>逆に満点も多いのではないだろうか。</p>
